

増子利栄さんのライフヒストリー

ブラジルでの生活

🔪 ブラジルでは増子さん一家はどんな家庭だったんですか？

私の父は日本人で、独身でブラジルに行き、コーヒー農園をやっていました。母はブラジル生まれの日本人。両親はブラジルで出会って結婚しました。私はブラジル生まれで、日本に届けを出さなかったから日本国籍は無いんです。届けたら日本人になっていましたね。ブラジルは二重国籍を認めるから、ブラジルで生まれて、日本に届けると二重国籍になっちゃうの。

兄弟は七人です。全員日本語が話せます。家の中では日本語で、ポルトガル語は絶対話してはいかんって言われていました。そのくらい厳しかった。でも、現地の学校に通っていたし、外へ出るとほとんどポルトガル語でしょ。日本語は、あんまり使わなかったね。家の中とか日本人会館とか、そういうときしか使わない。だからポルトガル語がどンドンうまくなっていきました。

来日

🔪 日本に来たのはいつでしたか？

日本に来たのは1988年5月11日です。当時、日本に来るのはなかなか大変でした。領事館で2千ドル積み立てないとダメなんです。それと、私は商売をやっていたから、「決算書も持って来い」って言われました。それまでちゃんと真面目に働いてたし、お金も持っていたので、私はその厳しい条件の中で来ることができました。

最初は日本がどんな状況かちょっと勉強しに来たんです。ところがそうこうするうちに1990年以降、たくさんブラジル人が日本に来ましたよね。90、91年は、毎日毎日、日本に来ていました。その様子を見て日本の中でもなんか商売できるんじゃないかと思って、今の商売を始めました。

🔪 家族はいつ頃来日されたんですか？

私の妻は日系人なだけで、最近来ました。何回も妻を連れに行っただけど、「ブラジルがいいから行かない」って言われてたの。子どもは10数年前に来ました。

日本で一番苦勞したこと

🔪 日本で一番苦勞したことはなんですか？

今でも忘れないけど、リーマン・ショックのときですね。私は商品を移動販売やレストランなど約500店舗に卸していました。でもリーマン・ショックになって、倒産が相次ぎました。みんな銀行からお金を借りていて、返せなくなったり、逃げたりした人もいました。私もそうだったから、そのときは逃げたかったですよ。でも家族のこととか、お客さんのこととか、責任があるし、いろいろ考えたら逃げるわけにはいかない。正直言って、もうみんな放ったらかしてブラジルに帰りたいと思っていました。でも、そういうことしたら、どうせブラジルに行っただってうまくいかないんですよ。

被災地へ肉1トン

🔪 2011年の東日本大震災のあと、被災地支援に行かれたんですね。福島県は増子さんのお父様のふるさとだそうですね。

そうそう。福島県の「ビッグパレットふくしま」っていう大きな施設に行きました。郡山市の中で一番大きな施設だったよ。日本人がほとんどで、外国人もいたけど、少なかった。

私のいところから、炊き出しは来るんだけど、あんまりたくさんは来ないんだって聞いたんですよ。市の職員がおにぎりやパンを配ってくれるんだけど、温かいものが全然ないみたいで。郡山市は爆発した福島第2原発から50キロメートル圏内の地点だからみんな怖くて、他の所から支援に来てても避けてしまうんだって。みんな気仙沼とかの方に行っちゃって、郡山市には来ないから困ってるって。だから私はあえてそこを選んだんですよ。親父のふるさとである福島を。お肉を1トン持って行きました。でも一日でなくなっちゃったよ。

日本への恩返し

🔪 そのときは、何人ぐらいで支援活動をしたんですか？

浜松から出発したのは9人くらいかな。100人くらいに声をかけて、「行く行く」って返事ももらっていたんだけど、向こうに行ってみると、誰も来ないの。私、みんなのためにTシャツ100枚作ったんだけどね。だから現地でもみんなに電話かけて、声かけて、そしたら51人になりました。原発事故があったばかりだし、みんな「放射能にやられたくない」って怖がってたから、「ここは安全なとこだよ」って伝えました。そこには1週間いたよ。最後の日なんかもう、ほんと疲れちゃって。気疲れっていうのかな。みんな、テントで寝たりして、寝ることもなかったから、良く寝られなかったしね。集まった51人はほとんどブラジル人。日本人は2、3人かな。バスで名古屋から30人来てくれました。(中略) 夜はみんな集まって反省会もやりました。「もっとできることないか」って。私たちが来ても、やることないじゃないかと。だから音楽隊を連れてこようとか、マッサージをしようとか。そういうことをみんなで決めました。それで音楽する人を連れてきたんだけど、こんなにみんなが悲しんでるところにサンバなんてダメだと言われたんですね。結局、施設の中ではできなかったから、道路のすみっこでやりました。結構な人が集まってくれて、みんな笑顔になったよ。やっぱ、みんなね、最初は暗〜い顔してたんですよ。でも笑顔になってきて、おばちゃんも若い子も踊ってくれました。ものすごい良かったよ。その中でおばちゃんが涙流しながらいろいろ話してくれるんだよね。「自分も死ねばよかった」って。そういう悲しいこともいっぱい聞いてきました。被災地での活動が終わると、あちこちから要望があつてね、でも肉がないから注文して宅急便で送ってもらうようにして、あちこち行きました。最後は石巻。もう肉が無いから、石巻では、家の中の泥を片付けに行きました。マスクしてスコップで泥を全部袋に入れるっていうそういう仕事。大勢で泥を全部取り除いて、やっと一軒きれいにできました。

🔪 なぜそんなに一生懸命支援することができたんですか？

日本への恩返しです。私たちがみんなブラジルで困っていたときに、日本の政府が私たちに仕事を与えてくれたんですよ。ブラジル人に仕事を与え、家を与え、それでブラジル人はお金をたくさん稼げました。それでブラジルに帰って、マイホームとか新車を買って、みんな幸せになっているんですよ。だから日本が困ったときに恩返しするの。私はいろんなことを経験してきたけど、人生で初めて被災地に行きました。本当にびっくりしちゃってね。こんなことが世の中にあるんだろうかって思った。私は何をしていたかわからなくなった。7日間、一所懸命頑張ったけど、最後の帰る日になって私は倒れちゃったの。疲れがいつぱんにきちゃってね。その後、2日3日寝込んでしまった。でも、本当に行つて良かったと思います。

出典

公益財団法人浜松国際交流協会(2018)『語り継ぐ浜松ーこのまちで暮らして No.1増子利栄ー』『世界の人と暮らしてー浜松国際交流協会35年のあゆみ』73-78頁